

荒神山スポーツ公園基本計画  
(概要版)

平成 28 年 5 月

# 目 次

はじめに	.....	頁 1
1. 基本計画の目的	.....	1
2. 現況及び課題	.....	1
3. 基本方針	.....	2
4. 具体的展開	.....	4

## はじめに

荒神山スポーツ公園は、昭和 46 年に都市公園として設置された後、野球場、陸上競技場、体育館などの主要な体育施設が次々と建てられました。更に美術館、たつのパークホテル、湯にいくセンターなどの文化保養施設が整備されたことや、自然豊かな景観などにより辰野町の観光拠点にもなっています。

しかし近年は公園内の各施設は長年の使用による老朽化が顕著になり、社会的な環境変化により休止となった施設もあります。

そのような状況のもと、平成 24 年度に上位計画として本公園の今後の運営方法や活動方法等に係る「基本構想」が、町民や関係団体が参加し策定されました。

このことを踏まえ、関連上位計画である「辰野町第五次総合計画」、「辰野町都市計画マスタープラン」における本公園の位置づけを見据え、本公園の基本計画の策定を行いました。

### 1. 基本計画の目的

荒神山スポーツ公園基本計画（以下：本計画）は、先の「基本構想」を踏まえ、今後の維持管理や再整備の方針を示すことを目的としました。

### 2. 現況及び課題

	課題の内容
■公園全体に関する課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・公園の目的やビジョンが明確でない。</li><li>・地形や自然などの既存資源を活かしていない。</li><li>・暗い、さみしいなどイメージが良くない。</li><li>・地域性や土壌に合わせた植栽がされていない。</li></ul>
■利便性に関する課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・施設が集中していないため使いづらい。</li><li>・こもれば広場、たつの海、藤棚下にベンチ等の休憩設備が少ない。</li><li>・芝生広場に日よけができる四阿等の休憩施設が少ない。</li><li>・安全管理上設置されているたつの海周辺の鋼製フェンスは、特に西側の法面に挟まれた部分での圧迫感が強く、デザインの配慮が必要である。</li><li>・公園全体の案内が不足している。</li><li>・公園へのアクセス整備が不十分。</li></ul>
■動線に関する課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・地形的な制約から、車両動線と歩行動線が分離しにくいいため、歩行者の安全を十分に確保した動線配置が困難。</li><li>・歩行動線が車両動線によって分断されている。</li><li>・歩行動線が明確でなく、周遊性が低い。</li></ul>
■施設や設備に関する課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・老朽化している施設が多い。</li><li>・駐車場やトイレが少なく、既存施設も狭い。</li><li>・施設が有効活用されていない。</li></ul>
■維持管理に関する課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・植栽の手入れが不十分。</li><li>・設備の維持管理が不十分。</li></ul>
■広報・PRに関する課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・公園の魅力を十分に発信できていない。</li></ul>

### 3. 基本方針

供用開始から 40 年以上が経過し、公園施設の老朽化、交錯した動線、バリアフリー施設の未整備、ウォーターパーク跡地利用等の課題を改善し、基本構想策定に際して寄せられた住民要望等を反映させ、基本構想の理念を継承する形で次のような基本方針としました。

#### ■ 現在も、これからもずっと 町民に愛され、町民の健康と暮らしを支える公園

	基本方針の内容
1. 住民と共に取り組む公園づくり	基本構想策定の段階における懇談会や住民アンケートで寄せられた要望及びパブリックコメント等による住民意見を公園の今後の計画に照らし合わせ住民と共に取り組む公園づくりを推進します。
2. ユニバーサルデザインの防災公園	年齢や障がいの有無に関わらず、できるだけ多くの人安心して利用できるようなデザインを目指します。また、災害時には防災の拠点として利用可能な防災施設の導入や災害時における既存施設の利活用を検討します。
3. ウォーターパークの跡地利用	経済的、技術的視点から施設の再利用の可否、解体についての検討の結果、更地にして新たな施設整備を検討することが好ましいと判断されました。住民の要望及び様々な条件を勘案し将来構想の検討を進めます。
4. 将来人口規模に合った施設規模の最適化	末永く継続的に利用者が安心して利用できる公園とするために、一部施設の転用・統廃合・除却も含め、将来人口減少と利用者ニーズの変化を見据えた施設規模の最適化を図ります。

## ■現在の良さや資源を最大限に活用した公園

	基本方針の内容
5. 既存施設の魅力アップと連携	公園内各種施設の老朽化や休憩所、ベンチなどの休養施設が少ないなどの課題があるため、各施設を改修し、施設の魅力を増進させ施設間の連携を図ることとします。

## ■自然と共生し、環境に配慮した公園

	基本方針の内容
6. 自然体験ができる公園	四季折々の変化が見られる貴重な自然が誰にも容易に理解でき、触れ合うことができるようにします。また、生態系調査をもとに利活用地区、保全地区などの区分けを行い、自然体験学習のできる公園づくりを進めます。

#### 4. 具体的展開

荒神山スポーツ公園は、基本方針に沿って次に示す具体的展開をはかります。

基本 方針	整備 方針	<b>現在も、これからもずっと 町民に愛され、町民の健康と暮らしを支える公園</b>	
		<b>■住民参加の公園</b>	住民の声を吸い上げ、今後の利用者ニーズを把握するとともに、将来人口規模に適した施設の今後の利活用・維持管理の方向性を検討する。 住民の参加を得て、先進地事例の視察など他市町村の状況把握と町の財政状況など資料を共有して活用方法などの研究を進める。
		<b>■施設のユニバーサルデザイン化</b>	バリアフリー対応の施設となっていない出入り口、通路、駐車場、便所、水飲み場、標識等の改善を図る。また、歩行者動線の見直しも行い、車両を気にせずに散策できる園路への改良を推進する。
		<b>■多目的広場・公園施設（ウォーターパーク跡地）</b>	ウォーターパーク跡地については、多目的広場（公園施設）として再生を図る方向で、今後の利用方法等について検討を行う。
		<b>■防災公園の機能の充実</b>	町の防災計画との整合性を図り、ヘリポートやその他の必要な防災施設を整備し防災公園としての機能を充実させる。また、公園の既存林が保持する水源涵養、土砂災害防止などの防災機能にも着目し、それらが将来にわたり維持できるような措置と保全を図る。
		<b>現在の良さや資源を最大限に活用した公園</b>	
		<b>■動線の見直し</b>	施設間を繋ぐ歩行者のための園路を整備する。施設間の歩行者園路や車道の歩道整備により園路全体が有機的に機能するようにする。
		<b>■温泉施設の活用</b>	パークホテル、湯にいくセンターとスポーツ施設との連携を充実させ、内外へのPR等も進めて集客の増加を図る。
		<b>自然と共生し、環境に配慮した公園</b>	
		<b>■自然散策路の充実</b>	公園全体の歩行動線を再検討し、緑地や森林内の園路沿いの植生等を観察できるようにし、自然への理解が深まるようなサインの検討を進める。
		<b>■里山の継承と発展</b>	生態系調査により管理内容を検討し、有識者の助言も受けながら将来的な保全計画を策定する。公園内緑地は既存植栽の更新により魅力を増進させていく。
		<b>■植栽計画</b>	既存植生を極力保全し、かつその植生の自然度を向上させる。 伊那谷の自然風土に適合したシンボリックな森の造成を図る。 新緑、花、果実、木の実、紅葉、落葉といった四季の移ろいを演出する。